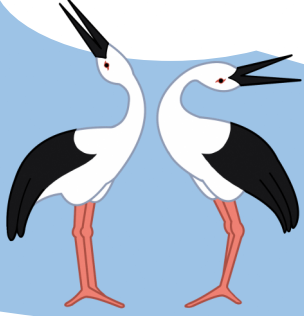


コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第130号

「はじめての足環装着」

2024年6月17日

先日、栃木県小山市の渡良瀬遊水地へ4月に誕生したコウノトリのヒナの足環装着に行ってきました！

現在国内に生息するほとんどのコウノトリには足環がついています。これは、ヒナが巣立ったあとの行動範囲や縄張り、寿命など基本的な生態を調べたり、血統管理をするうえで重要な役割を果たします。

この足環装着は毎年ヒナが巣立つ前のこの時期に行われており、天空の里のスタッフにとってはもはや毎年恒例の業務となっていますが、今年度赴任した私にとっては初めての経験でした。なので今回は、初心者目線でコウノトリの足環装着についてレポートしたいと思います！



今回足環装着を行ったコウノトリの巣塔



足環装着のための道具一式

足環装着作業はIPPM-OWS加盟団体から集められたスタッフの協力のもと行われ、スタッフにはそれぞれ事前に役割が割り振られています。

す。「ヒナを捕獲する担当」や「足環を装着する担当」のほか、「血液や羽などの検体を採取する担当」、「計測した数値を記録する担当」、「タイムキーパー」、「万が一ヒナが落下した場合に備えて巣塔の下で網を持ち構える担当」などもあります。今回私は、「ヒナの捕獲」と「足環装着」を担当させていただきました。

まずは「ヒナの捕獲」。ハーネスやヘルメットを装着し準備はオッケー！高所作業車に乗り込み高さ12メートルの巣塔のてっぺんに近づきます。私は高いところはへっちゃらなので、これはワクワクします。



安全のためハーネスをチェック



地上12mの巣塔です

多くの場合、高所作業車が近づくと親鳥の少なくとも1羽は警戒心から飛び立つようなのですが、今回私たちが巣塔のてっぺんに到着したとき、親鳥はまだ2羽とも巣にいました。これではヒナの捕獲に進めないで、網を持ったスタッフがもう少し近づくと、親鳥2羽は私の頭の真上をブワッと羽ばたき、あっという間に遥か遠くまで飛んで行きました。羽を広げたコウノトリの大きさはおおよそ2メートル！ものすごい迫力でした。写真を撮る余裕は全くなく、お見せできず残念です。

次は捕獲です。巣をのぞき込むと3羽のヒナがいました。コウノトリのヒナは身に危険を感じると“死んだふり”をして身を守る習性があるので、クタッと伏せていて動きません。

1羽1羽目隠しをした上で保定用のベルトで巻いて、この手にヒナの重みを感じながらそっと箱に移しました。

地上に戻ってくると、次は計測と足環装着です。ヒナの負担を考えると、手早く済ませたいものです。慣れたスタッフの手解きのもと、緊張はしましたが手早く正確に計測も足環装着も終わることができました。その間もヒナはずっと“死んだふり”でクタっとしています。



ガチャッと金具で固定します



足環がつけました！

すべての行程を終え、再び高所作業車に乗り込み、そっとヒナを戻します。ヒナは目隠しを外すとかわいらしくこちらに向かって威嚇をしていました。そして巣塔の高さからは、少し離れたところから親鳥がこちらを見ている様子がうかがえました。きっと大切なヒナが連れ去られて心配だったことでしょう。そのあとは地上に戻り親鳥が巣に戻ってくるのを遠くから見守り、無事任務完了となります。

以上、はじめての足環装着レポートでした！



目隠しをつけたコウノトリのヒナ（のくちばし）

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：ほっぴー